

双葉駅西地区複合的福祉サービス拠点整備事業

基本設計報告書 概要版

令和7年9月

プラスニューオフィス・ブルースタジオ設計共同企業体



■基本計画における整備方針

基本構想及び介護・福祉計画と体制構築の方向性、そして、「①町の資源・人材には限りがある、②移住者を迎え入れながらコミュニティを構築する必要がある、③まちとニーズが変化していく」といった課題解決に向けた検討結果をふまえ、施設計画のコンセプト案を下記のように整理した。

「豊かな暮らし」を支え、まちとともに変化する“場”をつくる

先行整備される駅西住宅エリアの「豊かな暮らし」そのものが、双葉町の「復興像」を町内外に示す顔になると考える。「豊かな暮らし」には、安心して暮らせる生活基盤に加え、楽しく暮らせる良好なコミュニティが不可欠である。町民の「豊かな暮らし」を支え永く愛される施設を目指す。

■設計主旨

双葉町の基本計画を受け、設計のメインコンセプトを設定する。

標葉の心の拠り所 『えきにしの母屋』

○『母屋』としての複合的福祉サービス拠点

- ・駅西住宅はひとつの集落であり生活共同体である。本施設はあたかもその共同体の『母屋』と言える存在である。人々はここを住民主体の憩いの場として自らの日常生活環境の一部として親しみを持って集い、支え合い、日常を共に過ごす。

○標葉の心の拠り所としての『えきにしの母屋』

- ・駅西住宅の中心に位置するこの場所には、住民が日常的に過ごせる多様な居場所をつくり、相互の境界を曖昧にすることによって、人々の偶発性ある交流を促す。
- ・一つ大きな屋根の下では運動・介護施設、シェア店舗など能動的な活動が多様に営まれる一方で、一階交流スペースには、あたかも農家の土間のように人々がふと立ち寄り、出会い、思い思いの時間を過ごす。ここは双葉町の人々のみならず沿線の人々の顔に出会える心の拠り所となる。
- ・本施設は身体的な健康を支える場所であるだけでなく、ストレスの少ない日常的なつながりが心の健康と社会的な健康を増進する。竣工時から各機能空間の境界を曖昧にした本施設は、将来のニーズの変化に対しても柔軟に対応が可能であり、『えきにしの母屋』はまちの成長とともに変化していく場といえる。



工事概要			
業務名称	双葉駅西地区複合的福祉サービス拠点整備事業	事業主	双葉町
建築場所	福島県双葉郡双葉町大字長塚字町西29番1地		
主用途	地域密着型通所介護事業所、訪問介護事業所、フィットネスジム、地域包括支援センター、交流スペース、飲食店舗		
工事種別	新築工事（準耐火建築物）		
工期	2026年3月～2027年5月（14か月）予定		
敷地概要			
敷地面積	1,893.35㎡	建蔽率	許容60%/計画55.47%
都市計画区域	都市計画区域内	容積率	許容200%/計画68.11%
用途地域	第1種住居地域	日影規制	10m以上の場合あり 平均GL+4m 3H/5H
防火地域	—(法22条区域)	都市計画道路	—
その他地域	市街化区域内	道路種別	42条1項1号道路
高度地区	—	前面道路幅員	北側14.000m、東側・西側10.500m
規模・構造			
建物用途	児童福祉施設	基礎	杭基礎 又は 地盤改良
工事種別	新築	延床面積	1,308.12㎡（1階700.49㎡、2階607.63㎡）
構造	鉄骨造	建築面積	1,050.33㎡
階数	2階建て	建築基準法	別表第1（2）令115条の3号（2）項
最高高さ	11.90m		
最高軒高さ	9.30m		

■配置計画

○歩行者に賑わいが伝わる配置計画

- ・駅前広場や歩道に対して、交流スペースや介護施設などの活動的な機能を配し、オープンな設えとすることで、外部に活動の様子が滲み出し、駅から住宅に歩いて向かう住民や、駅西住宅を通り抜けていく人々からも賑わいが垣間見え、多くの人々にとって通いやすく、日常的な交流が生まれるきっかけとなる。

○ウォーカブルな駅西住宅エリア

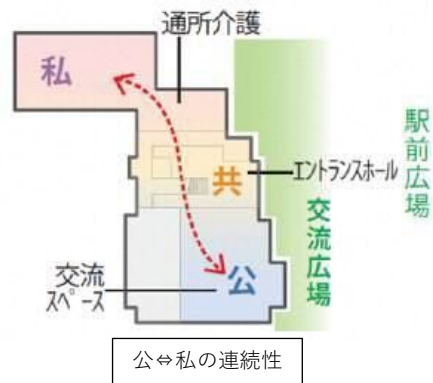
- ・駅西住宅は歩車分離がなされ、駅西住宅の住民だけでなく、駅東や電車で来訪する歩行者にとってもウォーカブルな町として、外構・動線計画がなされている。本施設の計画においても、敷地を東西に抜けるフットパスや交流広場・テラスを配置し、よりウォーカブルなまちづくりに寄与する。



■平面計画

○共用部を中心に全ての機能が一体となる施設

- ・建物中央のエントランスホールなどの共用部を中心に、通所介護・交流スペース・フィットネス・介護事業所は1つにつながり、全ての機能が一つに統合される施設計画である。どこにいても、誰かの気配を感じられるような、一体感のある空間構成である。



○「公・共・私」がシームレスにつながる空間

- ・すべての人に開放される「公(パブリック)」としての交流スペースから、通所介護の機能である「私(プライベート)」としての宿泊室や浴室などが、共用空間を介して連続する空間を計画する。
- ・通所介護の利用者は通所介護のエリアにとどまらず、エントランスホールや交流スペース、交流広場までを利用することで、多様な人々との交流を生み、社会参加を促すことで、介護予防を促進する。
- ・通所介護の食堂や機能訓練室はエントランスホールや交流広場に面し、多様な人々が介護利用者との日常的な交流を育み、「介護する側/される側」といった固定的な関係ではなく、多様な関係性を構築する。
- ・複数の部門で場を共有し境界を曖昧にすることで、交流のきっかけを増やす。
- ・プライバシーの求められるスペース以外は、すべて駅前広場に対して開き、屋内外での活動が相互によく見えるようにする。
- ・屋外からつながるテラスを介して屋内の活動が周辺に滲み出ることでまちに賑わいをつくる。

○新旧の町民同士や多様な人との緩やかな交流の創出

- ・境界を曖昧にすることと、様々な居場所を用意することで、「新旧の町民」という分け隔てなく、住民みんなが「双葉町の未来を担う人々」として接する居場所になる。

○「大・中・小」様々なスケールのたまり場が生みだす交流

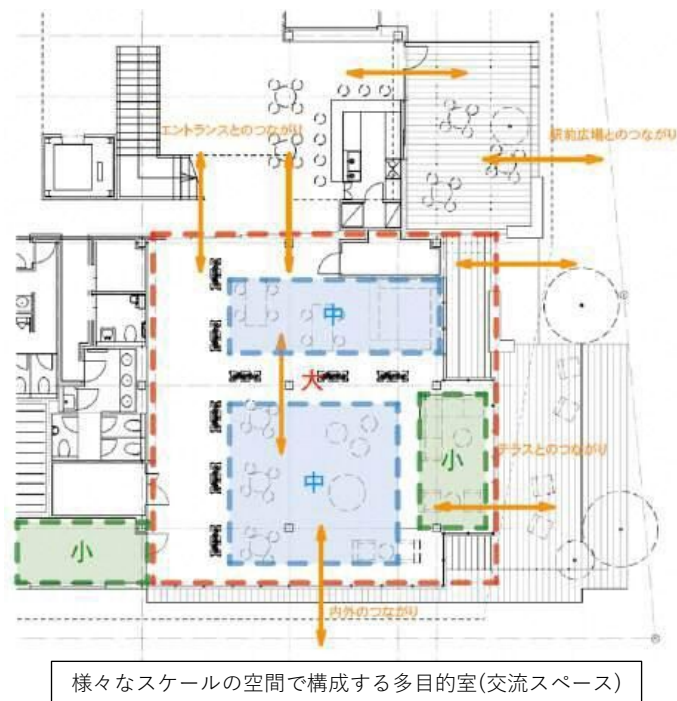
- ・交流スペースやエントランスホールなどには様々なスケールの空間を用意し、小さな交流や緩やかな交流が多発する空間を用意する。
- ・ひとりでも、複数人でも居たくなる日常的な交流(居合わせ)を育む環境を設け、年齢や障がいの有無にかかわらず、目的がなくとも行きたくなる町民の通いの場となるよう計画する。
- ・幼児コーナーはエントランスホールやシェア店舗近傍に配置し、親子同士の交流だけでなく、通所介護事業所の高齢者や多様な人々との交流を通して、ダイバーシティや共生の感覚を育むきっかけを作る。
- ・様々なスケールの空間を用意することで、災害時の一時的に滞在できるスペースとして、様々な状況に対応可能である。

○訪れる人を迎え入れる、大屋根の軒下とピロティ空間

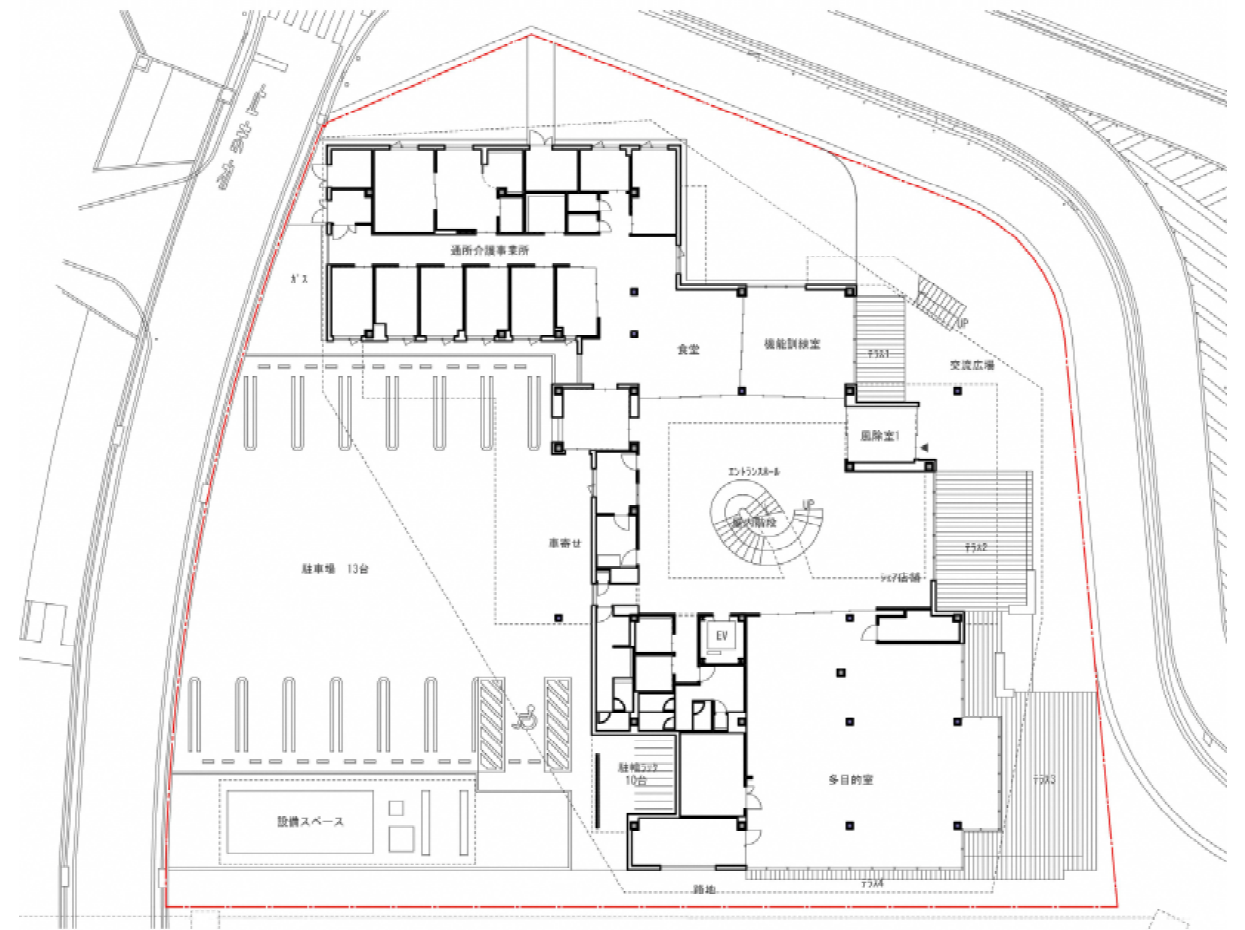
- ・建物の周囲には、大きく跳ね出した屋根の軒下やピロティ空間を設ける。駐車場のある西側（住宅地側）は、冬季の季節風を建物ボリュームで防ぎ、雨天時でも安全な乗降が行える車寄せとする。
- ・駅西住宅の軒下パティオや駅前広場のシェルターとつながる軒下の半屋外空間は、「えきにしの母屋」にも必要不可欠な空間要素であり、各々がフットパスで結ばれることで駅前広場を形成する。

○活動や賑わいが駅前空間ににじみ出る
縁側空間としてのテラス

- ・交流スペースは、東面のサッシを開け放つことで、交流広場や駅前広場へとつながる、半屋外空間となる。さまざまなイベントに対応できる設えとし、交流スペースのアクティビティが駅前広場ににじみ出る。



2階平面計画図 (S=1/400)



1階平面計画図 (S=1/400)

○シェア型飲食店舗

- ・双葉町民や施設利用者、近隣の町の方も利用できる飲食店営業許可を取得した、シェア型の店舗スペース。飲食店などに挑戦してみたい人が、駅前の立地を生かして短いタームで出店することができる。
- ・建物内外に開き、イベント時や介護機能訓練で使うキッチンとしても利用可能。利用者がいない時は指定管理者で簡易なカフェを営業するなど、常に人がいる状態を作ることによって駅西の賑わいの中心となる。
- ・厨房設備は、業務用の本格的なものを設置する。

○幼児スペース+ラウンジ

- ・子供が自由に遊べる木育スペース等を設置。シェア店舗の近くに設けることで、保護者は子供が目の届く範囲で遊びながら、町民同士でコーヒーを楽しんだりすることができる。その様子はテラスやエントランス、交流スペースにもしみ出すように広がる。
- ・子供連れの町民でも、長い時間の滞在を促し、駅前の賑わいを形成する一部となる。

○可動間仕切り

- ・エントランスに面する機能訓練室や食堂、多目的室の間は、団体利用等必要な時に仕切れるよう、可動間仕切りを設置する。機能訓練室や多目的室の様子・賑わいがエントランスからも見渡せるよう、尚且つ仕切る際の扱いやすさを考慮し、ガラス框の引き戸とする。

○移動式プランター・家具

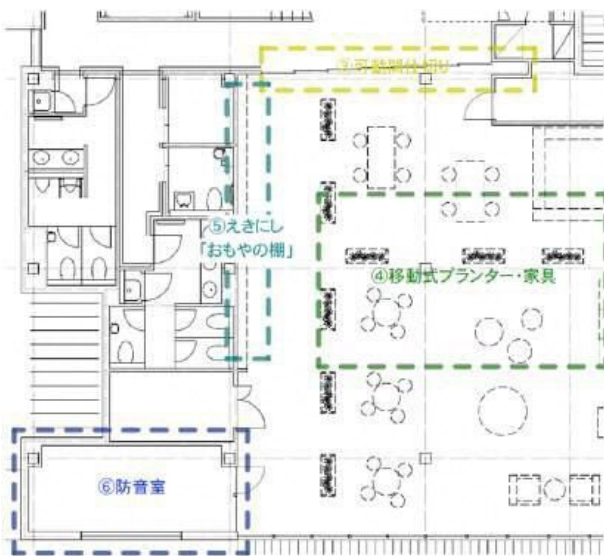
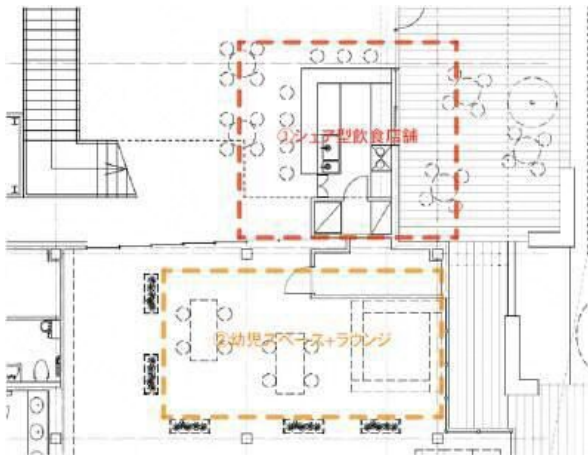
- ・多目的室内の空間は、移動式のプランターや、固定しない家具でレイアウトする。そうすることで、大きな空間の中に大小様々な居場所を作り出す。加えて、レイアウトの変更にも自由度が増すほか、団体利用で広く空間を使いたい際には、家具類を倉庫へ片付けることで、多目的室全体を一体で利用することができる。

○えきにし「おもやの棚」

- ・双葉町民が、自分が作ったものを無人販売したり、好きな本をシェアしたり、多様な使い方ができる棚を設置。町のイベント時にはディスプレイとしたり、ポップアップ的なお店のような使い方をしたり柔軟な使い方ができる。介護施設の利用者以外の町民が、この施設と関わるきっかけを作ることができる。

○防音室

- ・交流スペースの一角に、防音性能を十分に確保した部屋を設置。介護施設の利用者が、カラオケルームとして使ったり、町民や未来学園の高校生たちが、バンド練習用のスタジオとして使うことも想定。・駅前の好立地で、安価な料金で貸し出し、積極的な利用を促す。



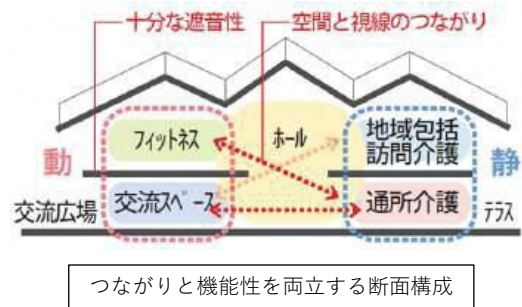
■断面計画

○立体的につながる空間

- ・建物中央のエントランスホールの吹抜け空間を介して、様々な視線を交錯させるとともに、屋外のテラスや交流広場を近接させることで、人々の交流を生むきっかけを創出する。
- ・2階テラスへ直接アプローチできる屋外階段を設け、駅前広場から気軽にテラスを利用できる。

○「動」と「静」の機能を断面構成上も分けて配置

- ・振動の発生する2階フィットネスジムやスタジオの階下は交流スペース、静寂性を求められる通所介護の宿泊室の上階は介護事業所事務室とし、断面構成としても「動」と「静」の機能を分けて配置し、機能性・快適性を確保する。
- ・フィットネスジムやスタジオの床は、床下地を鋼製二重床とし、造の小梁ピッチや部材断面は余裕をもって計画することで、十分な振動・遮音対策を行う。



■ファサード計画

○多面体切妻形状の屋根が谷戸の風景と呼応する「えきにしの母屋」

- ・周囲に存在する谷戸の情景や、西側に連なる阿武隈山地の山々と呼応する切妻屋根が寄せ集まったような屋根形状である。
- ・東西面、南北面とも切妻形状とすることで、どこから見ても切妻屋根が連なる特徴的な形状は、駅西住宅の中に調和しながら、新たなシンボル性のある「えきにしの母屋」の外観を特徴づける。



○周辺環境への調和した分節ボリュームと自然素材を使った外装デザイン

- ・住宅地の中に計画するので、スケールが大きくなりすぎないように全体のボリュームを分節し、駅西住宅との調和を図る。
- ・分節したボリュームを多面体切妻形状の大屋根が包み込むことで、一体感のある1つの居場所をつくりだす。
- ・外壁の一部や屋内の天井から連続する軒天井を木板張(保護塗装)とし、柔らかく温かみのある自然素材で来訪者を出迎えるデザインとする。

○駅側を開き、住宅側のプライバシーに配慮した開口デザイン

- ・駅前広場に対しては、様々なアクティビティが外観に表出するような、賑わいを創出するデザインとする。駅側に大きく開くことができる開口デザインし、日射を制御する軒庇を設ける。
- ・敷地西側の住宅地に対しては開口部を制限し、プライバシーや騒音、光害に対して配慮した計画とする。



■インテリア計画

○共用部を中心に全ての機能が一体となる空間構成と内装デザイン

- ・建物中央のエントランスホールなどの共用部を中心に、通所介護・交流スペース・フィットネス・介護事業所の全ての機能が一体となる空間構成とし、どこにいても、誰かの気配を感じられる計画である。
- ・多面体切妻形状の天井を木板張とし、空間を柔らかく分節しながら自然素材で包み込まれるような居心地良く、温かみのある内装デザインとする。



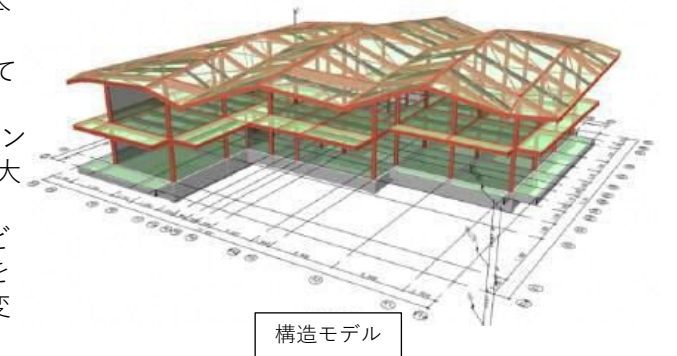
■構造計画

○1・2階架構

- ・1階および2階の架構は、建築計画における空間の自由度を尊重しつつ、構造安全性と経済性を両立させるため、長手方向5.5～7.5m、短手方向5.7～7.0mを基本モジュールとするグリッドを設定している。このグリッド上に鉄骨柱梁フレームを規則的に配置することで、合理的で汎用性の高い構造計画を実現している。
- ・柱は、角型鋼管350×350mmを標準として採用するが、空間構成や荷重条件に応じて、適材適所で異なる断面サイズの柱も使用する（詳細は実施設計で検討）。梁は、大梁・小梁ともにH形鋼H-450×200を標準材とし、大スパン部や荷重の大きい部位ではサイズを増すことで対応する。
- ・2階床構造は、合成スラブとし、鉄骨梁とスタッドボルトで一体化することで、構造耐力だけでなく歩行時の振動快適性にも十分に配慮している。

○屋根架構

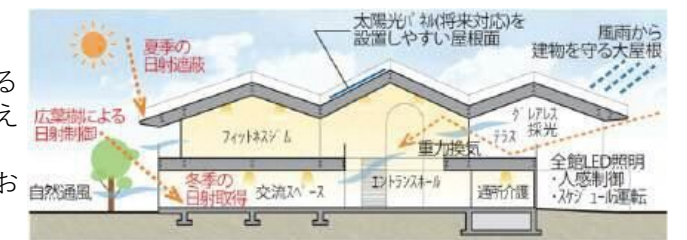
- ・屋根は折板形状を採用し、下階と同様の標準スパンを基本とするが、意匠の特徴となる軒先部分では最大スパン約18mを確保し、吹抜け上部でも約11mのスパンを実現している。また、軒先のはね出し長さは最大で約4.5mである。梁材は標準的にH形鋼H-450×200を用いるが、最大スパン18m部分ではH-800×300などの大断面部材を採用し、大スパン架構への対応を図っている。
- ・屋根の折板形状は、単なる建築表現としての意匠性にとどまらず、立体的な形状効果により屋根面全体の面外剛性を高める役割を果たす。これにより大スパンでありながら変形を抑えた安定した屋根構造を実現している。



■環境配慮計画

○パッシブデザインを最大限活用した設備計画

- ・大きな屋根の庇や建物ボリュームによる軒の出を確保することにより、日射を有効にコントロールし、グレアを抑えた自然採光を計画する。
- ・中央の吹抜け空間を利用した重力換気により、中間期における有効な自然通風を可能とする。



環境に配慮した建築構成

■ランドスケープ計画

○面的に賑わいが広がるランドスケープの連続性

- ・駅東エリアからも視認性の高い立面デザインや、内部の活動が滲みでるテラスを設けることにより、駅東エリアとのつながりを創出し、駅を中心とした面的な賑わいをつくりだします。
- ・駅西住宅の軒下パティオと連続する屋外空間が、駅前広場に面した軒下空間のネットワークを結びます。
- ・駅西住宅と駅をつなぐ歩行者動線が、敷地内や建物内を貫通し、交流スペースや交流広場のテラスなどが動線に面することで、交流を生むきっかけとなります。

